

○事業所名	もりもりめろん広場(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55名	(回答者数) 44名
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年1月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○多職種での支援、専門職の配置 保育士、言語聴覚士、作業療法士、公認心理師など、多職種が連携して支援を行う体制を整えている。	○専門職による支援 それぞれの職種の長所を活かした支援を行う中で、お子さまに様々な学習の機会を提供できている。 定期的に研修を実施し、療育の質の向上を目指している。	○保護者を交えた支援 お子さまの様子について保護者さまと情報交換を行うことで、特性や支援の方法について考えるきっかけを作っていく。 また、ご自宅などで実践できる遊びのアイデアなどもお伝えしながら、お子さまの成長を共に喜び合えるようにしていく。
2	○多様な支援スタイル 個別、小集団と、両輪での支援が可能な点が強みである。	運動面、言語面で気になる点があれば、個別の時間を設定して、個別でのアプローチをしている。 また、超早期療育も行い、個々に合わせた支援ができています。	
3	○部屋数が多く、庭がある 各課題に応じて部屋を使い分けることができるため、集中して課題に取り組むことができる。また、部屋を移動することで、気持ちの切り替えをしやすい。 庭があるため、砂遊びや広い空間での運動も行うことができている。	○部屋を使い分けた支援 例えば年長を対象にしたプレ小学校の時間には、体育、音楽、学活をする部屋を分けるなど、時間割ごとに部屋を移動することで、実際の小学校を想定した支援が可能である。	○構造化の環境設定を作りやすくする アセスメントを行い、それぞれのお子さまに合った構造化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○非常時等の対応 安全を確保するための計画について、周知が不十分な面がある。	○説明の回数が少ない 契約時、重要事項説明書に沿って話をしているが、この件について定期的に話をすることは少ない。	○周知を図っていく 避難訓練については、実施する旨を事前に伝えるが、その際に、安全の確保に関する事項についてもお伝えしていくようにする。
2	○きょうだい児への支援 きょうだい同士の交流の機会がない。	本人への支援が主になっているため、きょうだい児への支援はできていない。	感染症などの状況にもよるが、参観日などで、きょうだい児も一緒に活動する機会を作るようにするなど、考えていきたい。
3			